2026 年度 講座・出前授業報告書 No. 16

開催日時	2026 年 9 月 13 日（日） 開始時間 13：30 終了時間 15：00								
開催場所	谷口児童館								
実施内容	ゴム動力ヘリコプター								
人数	幼児	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	計
		4	7	3	2				16
スタッフ	５名	実施機関スタッフ			名				

１ 概要

休日の低学年児童向けの理科遊びの一つとして実施した。
児童館のスタッフの方々も協力的だった。

２ 実施内容

①初めに ppt により、今回の工作の目的、およびヘリコプターのつくりと飛び方、ドラえもんのタケコプターや竹とんぼとの違い等を説明した。
②各テーブルの様子を見ながら、段階的に作業手順を説明していった。作業はできるだけ子ども自らが考えてできるよう、見守ることに努めた。ただし、針金にビーズを通した後に針金を曲げる作業は、大人が工具を用いて行った。
③全員が完成したところで、ゴムの巻き方や手の離し方などをアドバイスしながらヘリコプターを飛ばした。後半は館の外に出て飛ばして遊ぶことができた。

３ 良かった点、課題点など

・羽の折り曲げについて、山折りと谷折りを実線と破線でわかりやすく表示した。
しかし、定規を添えて折る作業に手こずったり、折り曲げ過ぎたりする児童が多く見られた。
定規を短いもの（15cm のものや三角定規等）にすることを検討したい。
・推進力・揚力向上の目的で、羽の折り曲げ方を変更し、位置を軸に近い所にした。
ところが羽を一度折り曲げ過ぎると、その後修正しても上下の羽がぶつかり易くなってしまう。
また、何度かゴムを巻くうちに羽がへたってしまいがちだった。さらに改善が望まれる。
・軸に用いた紙製のストローの内径に対してゴム通しの針金が太く、作業がしづらかった。
・今回は時間が十分にあったため、羽に模様を描く時間をたっぷり与えることができた。参加者に女の子が多く、飛ばす目的より絵を描くのに夢中になってしまう様子も見られた。
ただ、マーカーで描き過ぎると紙が膨潤して弱くなったり重くなったりする可能性がある。本来は羽へは名前のみの記入に止める、あるいは色鉛筆を使用することも考えたい。
・児童たちからは「飛ばして面白かった」「楽しかった」との感想であった。











